



11月の歳時記(霜月/November) 落ち葉舞う季節となりました!



★ 11月の気象と安全衛生

11月は、秋から冬への季節の変わり目。
 気圧配置は西高東低にかわり、北より吹く冷たい風は、木の葉を吹き枯らせてしまうことから「木枯らし」と呼ばれ、この時季最初に吹く木枯らしは「木枯らし1号」と呼ばれ、冬の到来を感じさせます。立冬を過ぎると次の二十四節気は「小雪」、冷え込みが厳しくなり山々は初冠雪を迎えます。冬型が崩れて移動性高気圧に覆われると、穏やかな晴天となることがあり、寒さが一転し春のように暖かくなることから「小春日和」呼ばれます。しかし、夜間は放射冷却で霜が降ったり、放射霧や寒い所では路面凍結が発生します。車の運転は要注意、冬タイヤ装着の時季を迎えます。空気が乾燥するこの時季、ノロウイルスなど「ウイルス性の食中毒」が増加します。そして、季節性うつ病や屋内外の寒暖差による頭痛なども増加します。

今年インフルエンザも大流行の兆しがあり、コロナ対策も含めて気を抜けません。手洗い等の徹底、規則正しい生活習慣、適度な運動などを心がけましょう。寒くなりますが空気が澄みきって夜空もきれいな季節、流れ星を探して願い事でもいかが!

★ **七五三** 起源は平安時代。当時子供の死亡率が高く、7歳迄は『神の子』。健康を願い通過儀礼としてのお祝い行事。三歳:『髪置』男女とも髪を伸ばし始める。五歳:『袴着』男子が袴をつけ始める。七歳:『帯解』女子が帯締めに着物に変える。儀式は江戸時代あたり、七五三の言葉は明治頃から。今迄無事に成長した事を感謝し、今後も健やかであるよう祈る行事。『しつけ』もこの時期に仕上げるもの、昨今は『躰』を取り違えた親の過保護が目立つ、これでは子供たちの将来が危うい!

★ **こよみ:** 文化の日(3)、立冬(7)、七五三(15)、小雪(22)、勤労感謝の日(23)

I 品質月間・計量管理強調月間

原点復帰! 人づくりと強い現場で創る 新時代の品質

COVID-19が沈静化しつつ次のステージに移行してきており、この3年で働き方や生活様式が多くの変革がもたらされ、産業界の品質創造のあり方も、これからの新時代に適合するように新たなパラダイムの構築が求められています。

この数年間にとられた様々な対策について、真に変えなければならないものと、変えてはならないものを峻別し、新たな品質創造のためのパラダイムを探索する必要があり、今回のテーマが設定された。原点復帰は、お客様を満足させる品質を創造するには何をすべきかあらためて見つめようというメッセージです。

今だからこそ、原点に立ち戻って今後の目指すべき方向を考える機会にしましょう。

第64回 **品質月間11/1-30**
 2023 QUALITY MONTH



★ 11月1日は『計量記念日』 <正しい計量 社会を支え 未来へ繋ぐ>

計量に関する制度は、経済・社会の最も基本的な制度であり、国民生活のあらゆる分野の基本的制度です。計量の基準を定め、適正な計量を確保することは、日常生活を守るとともに、経済の発展及び文化の向上のため非常に重要なものです。

特に製造会社の製品、その品質を支えているのは計量であり、正しく維持管理がなされなければ、ものづくりは崩壊してしまい、当然ながら取引は成立なくなってしまいます。是非、この機会に職場の計量管理状況を再確認頂き、不備の無きよう管理願います。

II 秋季全国火災予防週間(11/9~15) 「火を消して 不安を消して つなぐ未来」



- 4つの習慣: ①寝たばこ厳禁 ②火の周囲に物を置かない ③火から離れない
 ④コンセントは埃を掃除し、不必要プラグは抜く
- 6つの対策: ①安全装置付き機器を使用 ②火災報知器設置点検
 ③3S、防災用品採用 ④消火器設置(初期消火用)
 ⑤避難経路等の確保 ⑥防災訓練等地域ぐるみの防火



「これくらいだいじょうぶさ」 甘い確認 痛い失敗!

毎日の「笑顔」「あいさつ」「気配り」で 活気あふれる快適職場 **ご安全に!**